

ニホンカワウソと思ったら

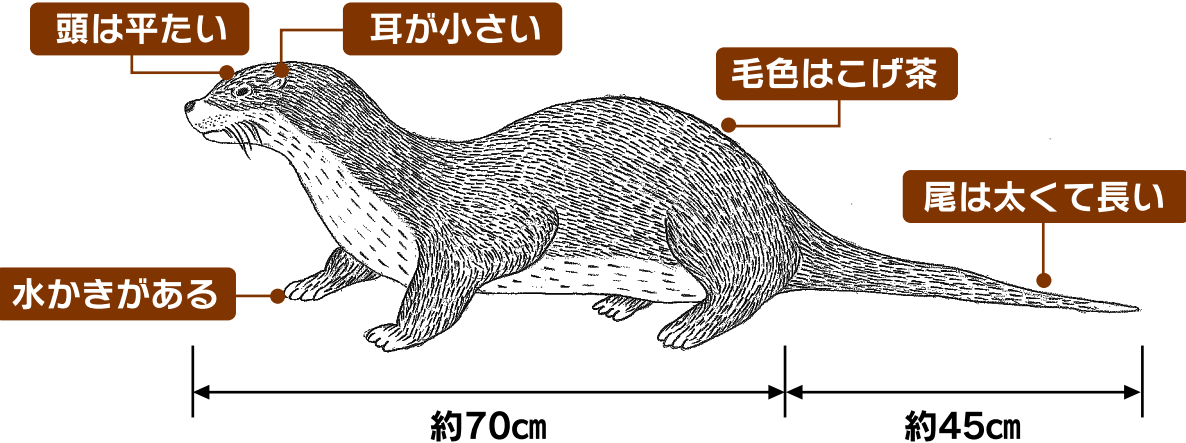
愛媛県立衛生環境研究所内
生物多様性センターまで

TEL 089-931-8757



ニホンカワウソの特徴

体は潜水するために細長く、尾は基部が大きく胴との境が不明瞭で太くて長い。頭胴長と尾長の割合は3対2である。短足で四肢に「みずかき」がある。爪は短く耳も極めて小さい。



ニホンカワウソの生態

夜行性的のように見えるが、薄明薄暮に活動して、昼間は真水の流れる場所に「ねぐら」「やすみ場」を作り、そこで休息する。夜間は採餌のため川、沼、海を行動し魚類を捕食する。粗食で小魚(10cm)は丸呑み、中型魚(10cm～20cm)は数cmに噛み切って呑み込むが大きい魚は骨、頭、尾を残し皮、身、臓物を片側から順次食す。川エビは丸呑みし、カニの殻は食さない。糞は「ねぐら」「やすみ場」の近くや岩の上に、砂地では脱糞し砂をかけ次回はその上に重ね、脱糞する。いずれも溜め糞する。行動中の脱糞はサインポストで、川原や海岸の石や岩の上に少量する。糞の未消化の骨、うろこ殻を混入するが餌が不足すると液状糞をする。行動の範囲は広く「ねぐら」「やすみ場」を作りこれを利用して行動する。巣穴はこれとは別で自然の岩穴や木、竹、しだの根の下等を掘って作る。10月～11月に発情し約2ヶ月で1～2頭を出産する。

ニホンカワウソの足跡（ほぼ実物大）

